

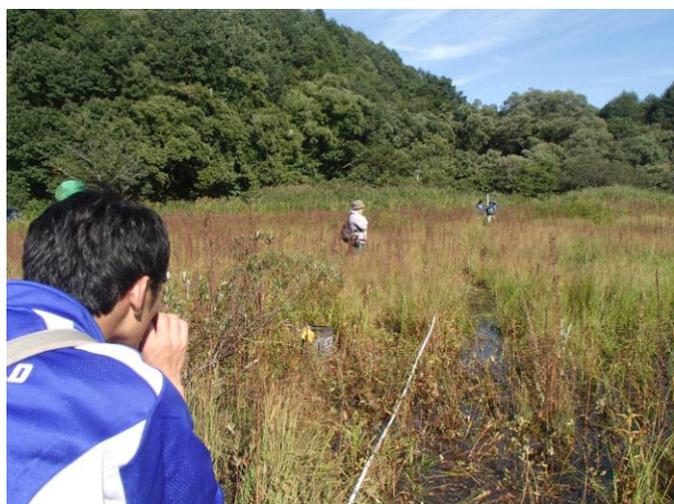
生物多様性保全実習報告

2013年9月18～20日の3日間、裏磐梯地域で生物多様性保全実習を行いました。今回の実習は受講生8名、教員2名、ティーチングアシスタントの大学院生1名、スタディ・リエゾンである黒沢研究室の4年生4名で行いました。

初日は、秋元湖東岸の湿地生植物群落で帯状コドラート調査を行いました。岸边から陸域にかけて間隔を空けながら1m×1mのコドラートを張り、コドラート内の種構成および種ごとの被度(%)を記録して、陸域から水域への植生の変化を調査しました。コドラート調査の際に湖面から地形の高さも合わせて記録しました。今年の秋元湖は去年と比べ水位が1m程上昇していました。

2日目は、外来種の駆除作業を行いました。午前は、柳沼で、外来種のキシノウブ、コカナダモ、ハッカ属を駆除しました。キシノウブは岸边に群生しており、根から掘り取るのが困難でした。取りきれなかったキシノウブは果実だけを切り取りました。午後は、裏磐梯エコツアーリズム協会、北塩原村職員、裏磐梯ビジターセンター職員、環境省磐梯朝日国立公園事務所アクティブレンジャー、地元住民と協力して、曾原地区の湖沼で外来種のコカナダモを駆除しました。この湖沼では、コカナダモが全体に渡って繁茂しており、一度では取りきれませんでした。4時間の作業で駆除したコカナダモは、最終的に4tトラック4杯分になりました。

最終日は、再び秋元湖で水生植物群落のコドラート調査を行いました。胴長班とゴムボート班に分かれて2m×2mのコドラートを張り、水生植物の種組成および種ごとの被度(%)を調査しました。水中にはタチモ、セキシノウモ、ヒロハノエビモ、マツバイ、ヒメホタルイなどの様々な水生植物が生えていました。3日間、雲一つない晴天の中で無事に実習を終えることができました。



1日目 帯状コドラート調査



2日目 外来種のコカナダモ駆除の様子